

令和9(2027)年度
名古屋大学大学院工学研究科
土木工学専攻

博士前期課程・博士後期課程

入 学 試 験 案 内

この案内書は、令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程学生募集要項の説明を補い、土木工学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。したがって、上記の学生募集要項を必ず入手した上で、手続きを行う必要があるので、留意されたい。

◎博士前期課程

本専攻は土木工学系の学科出身者に限らず、土木工学に興味を持つ工学部の他系学科、理学部、農学部、経済学部、文学部等の卒業生にも広く門戸を開いており、専門部門の試験においてそれぞれの専門性を考慮した問題を用意している。詳しくは「5. 一般選抜試験の筆記試験科目の選択方法ならびに出題範囲 専門部門」の項を参照されたい。なお、不明な点は下記へ問い合わせさせていただきたい。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 工学研究科9号館西棟1F
名古屋大学大学院工学研究科 環境土木事務室※
(電子メール jimu@civil.nagoya-u.ac.jp, 電話 052-789-3735)

※環境土木事務室は土木工学専攻事務室・土木工学専攻入試係を兼ねている

1. 入試に関する事前調査用紙の提出(必ず提出すること)

本専攻では、工学研究科への出願手続きとは別に、入試に関する事前調査を実施している。志願者は全員、事前に希望指導教員に受験希望であることを連絡の上、別紙「入試に関する事前調査用紙」を作成し、それをPDFに変換したファイルを環境土木事務室・jimu@civil.nagoya-u.ac.jp宛てに、電子メールの添付ファイルとして提出すること。希望する受験方法に応じて、提出期限が異なるので注意する。一般選抜試験において「専門部門B」を選択する場合は、出身学科のシラバス(授業要目)の写しもPDFファイルとして一緒に提出する必要がある、事前調査用紙を提出しない場合、「専門部門A」の受験となる。電子メールでの提出ができない場合は、郵送にて期日までに環境土木事務室に提出すること。

なお、この調査はあくまで土木工学専攻独自の事前調査であって入学試験の申込みではない。令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程学生募集要項を入手して熟読の上、2.以降も参照して、所定の手続き(出願登録・入学検定料払込・願書提出)を必ず行うこと。また、事前連絡をもって指導教員が決定されることはなく、指導教員は入学後に正式に決定される。

	受験方法	入試に関する事前調査用紙提出期限
(1)	筆記試験免除を受験する者 <u>(土木工学系の学科出身者に限る)</u>	令和8年6月4日(木)
(2)	筆記試験免除を受験しない者で、一般選抜試験を「専門部門A(土木工学系)」で受験する者	令和8年7月3日(金)
(3)	一般選抜試験を「専門部門B(土木工学系以外)」で受験する者	令和8年6月4日(木)

2. 出願登録期間・入学検定料払込期間・願書受付期間

「令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程学生募集要項」を必ず確認して、出願手続きを行うこと。なお、筆記試験免除を希望する者として出願し、筆記試験が免除されなかつ

た場合、筆記試験免除を希望しない者として重ねて出願する必要は無い。

3. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

・入試期日及び科目

本専攻は筆記試験免除の制度があり、願書においてこれを希望した者は、次表の日程で審査が行われる。書類選考または面接試験において選抜から漏れた者は一般選抜試験（筆記試験）を受験することができる。なお、この制度での選抜は土木工学系の学科出身者に限る。所属する学科が選抜対象となるか不明な場合は、事前に希望指導教員へと問い合わせること。

<筆記試験免除者選抜>

月 日	時 間	事 柄	試験場・集合場所
6月25日(木)		書類選考結果の本人宛発送	
7月18日(土)	9:30~17:00	面接試験	ES 総合館 3階大会議室* (集合場所)
7月23日(木)		面接試験結果の本人宛発送	
8月20日(木)	面接試験結果通知時に通知する。	専攻教員全員による口頭試問 (一般選抜試験に同じ)	ES 総合館 025 講義室* (集合場所)

※変更の可能性あり。詳細は願書提出時に配布される試験場一覧を確認すること。

筆記試験免除を希望していない者および、筆記試験免除者選抜において選考に漏れた者は次の日程での一般選抜試験（筆記試験・口頭試問）を受験する。

<一般選抜試験>

月 日	時 間	科 目 名	試験場・集合場所
8月18日(火)	13:30~16:30	1. 基礎部門	} ES 総合館 025 講義室*
8月19日(水)	9:00~12:00	2. 専門部門	
8月20日(木)	筆記試験当日通知する。	3. 専攻教員全員による口頭試問	ES 総合館 025 講義室* (集合場所)

※変更の可能性あり。詳細は願書提出時に配布される試験場一覧を確認すること。

4. 筆記試験免除者選抜試験

本専攻では、学業成績が特に優秀で、かつ本専攻での勉学に高い意欲を持つ者に対して筆記試験免除者選抜を実施する。

筆記試験免除者選抜の希望者のうち、書類選考に合格した者は面接試験を受ける。

本専攻の筆記試験免除者選抜の希望者は、願書提出時にTOEFLまたはTOEICのスコアシートを提出することを必須とする。スコアシートの提出方法については、「令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程学生募集要項」を必ず確認すること。

5. 一般選抜試験の筆記試験科目の選択方法ならびに出題範囲

出題範囲については7ページの「名古屋大学大学院工学研究科（土木工学専攻）令和9(2027)年度博士前期課程入学試験学力検査出題範囲」を参照のこと。

・外国語

成績はTOEFL (Test of English as a Foreign Language) またはTOEIC (Test of English for International Communication) のスコアにより判定する。スコアシートは、願書提出時に他の出願書類と併せて提出すること。なお、筆記試験を免除されなかった者は、TOEFL/TOEICのスコアシートの再提出を認めている。スコアシート提出の詳細については、「令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程学生募集要項」を必ず確認すること。

・基礎部門

応用数学3問および小論文1問を出題し、これらの問題から3問を選択解答する。

・専門部門

専門部門については、以下の「専門部門 A」（土木工学系）、「専門部門 B」（土木工学系以外）のいずれかを選択する。

専門部門 A（土木工学系）

「構造・材料工学」より3問、「地盤工学」，「水工学」，「計画学」，「環境工学」の4つの科目より、それぞれ2問出題し、これらの問題から5問を選択解答する。ただし、1つの科目より選択可能な問題は2問までとする。

出題範囲については7ページの表「入学試験学力検查出題範囲」の専門部門 A の項を参照のこと。

専門部門 B（土木工学系以外）

本専攻では土木工学系以外の学科出身者にも広く門戸を開き、専門部門 B の試験において社会基盤工学や環境管理に資する土木工学系以外の分野でのそれぞれの専門性を考慮した問題を用意している。

専門部門 B では、(1)「社会基盤開発・環境管理」に関する問題（専門部門 B において共通の問題）と、(2)土木工学の中で入学後に希望する専門分野から出題される問題の2つに対して解答する。(2)の出題にあたっては、受験者の出身分野に応じた問題が用意される。出題範囲については7ページの表「入学試験学力検查出題範囲」の専門部門 B の項を参照のこと。本専攻での各分野に関する詳細は、8ページの表「指導教員および教育研究内容一覧表」および土木工学専攻ホームページ (<https://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html>) を参照のこと。

専門部門選択に関する注意

- i) 志願者の出身学科が土木工学系の場合は必ず「専門部門 A」を選択する。
- ii) 志願者の出身学部、学科が土木工学系以外の場合は「専門部門 A」，「専門部門 B」のどちらを選択してもよい。
- iii) 「専門部門 A」を選択した場合、志願者の出身学科に拘らず「専門部門 A」で受験する。こちらから確認の通知はしない。
- iv) 「専門部門 B」を選択した場合、志願者の出身学部、学科、専門分野について書類審査を行う。その参考とするので、出身学科のシラバス（授業要目）の写しを提出すること。審査の結果、志願者が土木工学系の学科出身者であると判断された場合には、「専門部門 A」で受験しなければならない。「専門部門 B」での受験が許可されたか否かについては、6月末までに志願者に連絡する。
- v) 「専門部門 B」を選択する場合は、土木工学専攻博士前期課程入学試験 事前調査用紙を提出する前に、希望指導教員に「専門部門 B」で受験希望であることを連絡すること。事前調査用紙を提出しない場合、「専門部門 A」での受験となる。

6. 募集人員

「令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程学生募集要項」に記載されているように、土木工学専攻の博士前期課程の募集人員は36名である。

7. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。筆記試験に際しては筆記用具、鉛筆削り、消しゴム、時計のみ使用してよい。試験に電卓が必要な場合は、大学側で準備するので持参しないこと。

8. 筆記試験時の遅刻者及び途中退室者の取り扱い

基礎部門および専門部門において、試験終了時刻を過ぎて到着した受験生には受験を認めない。終了時刻前に到着し、遅刻が本人の責めに帰さない場合は、試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。なお、いずれの場合も早退は認められない。

9. その他

この情報に変更，修正がある場合は次のホームページに掲載するので，随時確認のこと．

<https://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html>（土木工学専攻のホームページ）

追記

- ・ 提出書類に含まれる個人情報は，入試に関すること以外には使用しません．
- ・ 過年度実施（令和8年度入試）の試験問題の入手方法については，環境土木事務室に直接来室して問い合わせるか，または，環境土木事務室に電子メールにて問い合わせること．

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 工学研究科9号館西棟1F
名古屋大学大学院工学研究科 環境土木事務室
（電子メール jimu@civil.nagoya-u.ac.jp）

◎博士後期課程

後期課程には、一般選抜と社会人特別選抜がある。

1. 出願登録期間・入学検定料払込期間・願書受付期間

「令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程学生募集要項」を必ず確認して、出願手続きを行うこと。

2. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

- ・入試期日及び科目

月 日	時 間	科 目 名	試験場・集合場所
8月19日(水)	希望指導教員より通知する	1. 口述試験(基礎部門・専門部門)	希望指導教員より通知する。
8月20日(木)	口述試験当日通知する。	2. 土木工学専攻教員全員による口頭試問	

※変更の可能性あり。詳細は願書提出時に配布される試験場一覧を確認すること。

3. 試験の内容

- ・外国語

成績はTOEFL (Test of English as a Foreign Language) またはTOEIC (Test of English for International Communication) のスコアにより判定する。スコアシートは、願書提出時に、他の出願書類と併せて提出すること。スコアシート提出の詳細については、以下の点に注意するとともに、「令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程学生募集要項」を必ず確認すること。

- TOEFL又はTOEICのスコアシートを提出しない場合は、出願は可能であるが、外国語(英語)については評価されない。
- スコアシートはTOEFL, TOEICどちらか一方、又は両方の提出が可能である。
- 提出されたスコアシートの返却には応じられない。また、いかなる理由でも、一度提出した同一種類のスコアシートの差し替えにも応じられない。
- TOEFLのスコアシートを提出する場合、iBT (Internet-based Test) (Home Editionを含む)のスコアを有効とする。団体向けテストプログラムであるITP (Institutional Testing Program)のスコアは受け付けない。なお、「Institutional Score Report」または「Official Score Report」と、「Test Taker (Examinee) Score Report」のいずれか一方でも期限内に到着しなかったときは、スコアシートの提出はなかったものとして扱う。
- 令和6年6月1日以降に実施されたTOEFL/TOEICのスコアのみ有効とする。なお、TOEICについては、令和8年5月17日実施分までのスコアシートのみ受け付けるが、スコアシートが発送されるまでには1ヶ月程度の期間を要するため、提出日に間に合うよう、受験すること。

- ・基礎部門・専門部門 (口述試験)

博士後期課程における研究計画についてプレゼンテーションを行い、出題委員がプレゼンテーションの内容に対して質問をすることにより口述試験を行う。別途資料の提出を要請される可能性がある。必要に応じてプレゼンテーション資料の提出も可能とする。

4. 募集人員

「令和9(2027)年度名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程学生募集要項」に記載されている通り、一般選抜の博士後期課程の募集人員は9名であり、社会人特別選抜による募集人員若干名を含む。

5. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。必要に応じて、プレゼンテーションを印刷した資料を準備することも可能である。

6. 遅刻者の取り扱い

試験終了時刻を過ぎて到着した受験生には受験を認めない。終了時刻前に到着し、遅刻が本人の責めに帰さない場合は、試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。なお、いずれの場合も早退は認められない。

7. その他

この情報に変更、修正がある場合は次のホームページに掲載するので、随時確認のこと。

<https://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html> (土木工学専攻のホームページ)

追記

- ・提出書類に含まれる個人情報は、入試に関すること以外には使用しません。

名古屋大学大学院工学研究科（土木工学専攻）
令和9(2027)年度 博士前期課程入学試験学力検査出題範囲

科目名		主な出題範囲		時間・配点
外国語	英語	全員必須	TOEFLまたはTOEICのスコアにより成績を判定する.	(200点)
基礎部門	小論文	応用数学3問と小論文1問の中から3問を選択解答する.	社会, 経済および環境問題などに関する小論文で, 主としてその論理性を問う.	180分 (1問100点, 合計300点)
	応用数学		微分・積分, ベクトル解析, 行列と行列式, および確率・統計の基礎的事項ならびに工学への応用	
専門部門 (A・Bのいずれか)	専門部門 A	「構造・材料工学」より3問, 「地盤工学」, 「水工学」, 「計画学」, 「環境工学」の4つの科目よりそれぞれ2問を出題し, これらの問題から5問を選択解答する.	材料の応力とひずみ, 骨組構造物の解法, マトリックス構造解析の初歩, 鋼構造の諸問題, コンクリート構造, コンクリート材料の諸問題など	180分 (1問100点, 合計500点)
			浸透, 土の基礎的性質, 圧密, せん断, 斜面安定, 支持力, 土圧, 各種室内土質実験とその設計への適用, 軟弱地盤対策, 地盤耐震工学など	
			静水力学, 流れの基礎方程式, 開水路・管路の流れ, 波の基本特性と変形, 風波, 波圧と波力, 河川・海岸構造物, 河川工学, 流出過程とモデル, 河川計画	
			土木計画における統計的・数理計画的手法, 費用便益分析, 地域計画, 都市計画, 土地利用計画, 交通工学など	
			国土開発・利用に伴う環境の保全と管理, 環境影響評価, 衛生工学, 大気汚染, 水質汚濁, 土壌・地下水汚染, 環境システム工学など	
	専門部門 B	社会基盤開発・環境管理	国土・都市空間・社会基盤の開発・利用および環境管理などに関する基本的事項について問う. (2問)	
専門分野	各受験者の出身学部・学科における専門のバックグラウンドを活かしつつ, 土木工学専攻各分野 (8ページ「指導教員および教育研究内容一覧表」参照) での展開可能性について問う. (3問)			

なお, これ以外に土木工学専攻全教員による口頭試問がある.

指導教員および教育研究内容一覧表

専門分野	指導教員	教育・研究内容
構造・材料系	舘石 和雄 教授	鋼構造物の維持管理工学，鋼構造部材の延命化技術，鋼構造物の点検技術，鋼・コンクリートの合成構造物の力学的挙動
	中村 光 教授	コンクリート構造学，コンクリート構造物の耐久性力学と維持管理，RC構造物の耐震設計，RC構造物の非線形数値解析
	加藤 準治 教授	計算力学，有限要素法によるトポロジー最適化手法の開発，3Dプリンターによる次世代型新構造の開発，マルチスケール解析による先端材料の最適設計，情報学を取り入れた数値計算
	判治 剛 准教授	鋼構造物の疲労破壊現象の解明と維持管理，鋼構造部材の補修補強技術，鋼橋の地震時破壊特性の解明とそのレトロフィッティング技術の提案，土木構造物への画像処理技術の援用
	三浦 泰人 准教授	極限環境下におけるセメント材料の耐久性力学，内部膨張劣化機構の解明に向けたメソスケールモデル
	西口 浩司 准教授	スーパーコンピューティング，計算力学，非線形構造解析，流体-構造連成解析，3D生成AI
水工系	戸田 祐嗣 教授	治水と環境の調和した河川管理技術開発，植生を有する河道の流れ・地形・環境形成機構，河川生態系シミュレーション
	溝口 裕太 講師	流域治水・環境，河道の維持管理，植生を有する河道の土砂水理現象，河川生態系モデリング，河川地形・植生のモニタリング
地盤系	中野 正樹 教授	地球環境に配慮した地盤材料学の構築と展開，発生土（建設発生土，浚渫土，災害廃棄物等）の力学特性に基づく有効利活用技術
	野田 利弘 教授	飽和／不飽和土の動／静的水～土連成有限変形解析，地盤改良・補強工等の工法原理の解明・開発，人工・自然地盤の地震時・地震後応答解析，地盤の形成・変動過程の再現
	中井 健太郎 准教授	構造物～地盤連成系における地震時挙動の把握，地層不整形性が表層地盤の地震被害に及ぼす影響，年代効果を付加した疑似自然堆積土の創造，軟弱粘性土の動的特性の把握
	酒井 崇之 准教授	泥岩のスレーキング現象の解明，既設盛土の健全性と耐震性向上に関する数値解析的検討，環境に配慮した地盤改良技術
計画系	山本 俊行 教授*1	自動車保有・利用行動の分析，交通行動分析，環境的に持続可能な交通，ITS（高度道路交通システム），交通安全・事故解析
環境系	林 希一郎 教授*1	エネルギー環境政策，環境影響評価，生態系サービス評価，国際環境協力
	吉田 奈央子 教授*1	生物機能を用いた化学物質汚染環境浄化，静脈インフラにおける未利用資源の活用
国土デザイン系	富田 孝史 教授*2	災害に強く持続可能な国土・地域開発，沿岸・港湾災害工学，津波・高潮による被害推定，地域機能継続マネジメント
	中村 晋一郎 准教授	流域を軸にした国土デザイン，発展途上国における気候変動適用策，都市水循環の再生，国土・流域史
	田代 むつみ 講師	異分野融合による国土デザイン，道路インフラの維持管理・災害対策，交通マネジメント，先進モビリティサービス

(*1) 未来材料・システム研究所

(*2) 減災連携研究センター